

## 令和5年度 第4回遠軽地区地域公共交通活性化協議会 議事

日時場所	令和6年3月26日金曜日 14時 遠軽町役場 3階大会議室
<b>1 開会</b>	
17名の委員中16名出席で会議が成立していることを報告	
<b>2 会長挨拶（遠軽町長）</b>	
<p>皆さまお忙しいところ御出席いただきありがとうございます。。 遠軽町長の佐々木でございます。 今回、計画策定について最後の会議になるかと思えます。</p> <p>「2024」問題でドライバーの運転時間が規制されることとなります。その他にも人口減少問題があります。その中で公共交通をどのように考えていくか、この会議で知恵を出し計画を作っている訳であります。</p> <p>他にJR北海道の問題です。集中改革期間が令和5年度で終了し、コロナウイルスの影響があったため、国から「業務監督命令」が再度発出され3年間延長されました。1092億円の財政支援を受けて経営見直ししていくこととなります。</p> <p>以前に北海道大学、岸教授が遠軽～札幌間を移動する際、1割がJR利用すると採算が取れると話したことがありましたが、岸教授から訂正がありまして、正確には4割～5割くらいJR利用で採算が取れるということであります。</p> <p>石北線は道央からオホーツクを抜ける大動脈であります。あと稚内に抜ける宗谷線は国として残すべきであり、この広大な土地で人口は少ないが、1次産業の価値があり、しっかり貢献をしております。食料安全保障のみならず、防衛についてもこの広大な土地があるから自衛隊の訓練ができる。これは北海道だけの問題ではありません。JRの話をししましたが、道路も同じです。多くの課題があるその中で遠軽地区の計画の取りまとめをしていきたいと考えております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>	
<b>3 議事</b>	
事務局説明（遠軽町企画課主幹）	
【議案第1号】 遠軽地区地域公共交通計画（案）について	
・令和6年1月26日から令和6年2月25日までの1か月間パブリックコメントを実施。提出された意見は無いことを報告。	
【議案第1号質疑】	
遠藤委員	町内循環線で、路線を分けることで時間が変わりますか。
事務局	通常使いをしている通勤者や通学者など影響が出ないように検討する。
可決	

#### 4 意見交換

遠軽町 佐々木町長

- ・市町村を跨ぐ広域交通は北海道、JR問題であれば国家の問題。しかし、責任が地方に地方にとなっているように感じている。地方頑張れと言われていますが、大事な動脈を切られているため、そういった政策が地方の衰退を招いている。
- ・難しい問題だが、そういったところを考えながら、公共交通も考えていかなければならない。

湧別町 因副町長

- ・名寄線、湧網線が昔に廃線となり、鉄路が無い町。
- ・比較的広い町内の移動手段として町営バスでこれまで何とかやってきておりますが、人口減少する中で住民の生活を守るためどこまで堅持できるか。
- ・遠軽の医療機関へ通院している方が多く、移動手段を確保しているが、遠軽の医療機関で用が足りず、北見市、旭川市へ通院している方がいる。
- ・協議会が発足したことにより、佐呂間町の御厚意により、湧別町から北見市へ行く路線ができた。
- ・旭川市、札幌市と更に広域となると3町の枠は超えますが、3町の協議会で議論していきたい。

佐呂間町 武田町長

- ・3町それぞれの自治体であるが、広域的に課題が協議できる場があることはよい。今回の湧別町とのモデルはよい成果。
- ・遠軽地区では消防、ごみ処理を広域組合で行っている。全道的にみても消防とごみを一緒のエリアで行っているところはない。遠軽地区は形ができている地域。
- ・これからも様々なことを協力しあっていきたい。

遠軽町 佐々木町長

- ・湧別町と佐呂間町から話しがあったとおり、今3町の中でまとめて進んできている。

北見バス 佐々木次長

- ・事業者として計画に沿って地域の発展に努力したい。
- ・乗務員不足の話題があります。札幌地区では減便が増えている。
- ・幸いに遠軽営業所は乗務員が確保できているため、減便の対応は行っていない。
- ・計画に沿って進めていく中で、乗務員の高齢化が進み、次につながる採用ができていない。
- ・今計画には盛り込んでないが、乗務員不足対策を各町の計画等で対応していただき、交通の維持に対して一緒に詰めて、そのためには利用者を増やし収益の確保することを考えていきたい。

北紋バス 大島常務

- ・様々は課題がある中で、3町での計画策定はとても前向きである。
- ・北紋バスの営業区域が広く、それぞれの自治体のそれぞれの課題をどのように整理していくか。
- ・人口の壁はありますが、計画に沿った実証を行っていききたい。

私鉄総連 白岡委員長

- ・乗務員不足は10年前からありました。乗務員は時間外で対応して何とかつないできたが、昨年回らなくなり、北見エリアでは減便となってしまった。
- ・なぜ全国的に乗務員不足となっているのか、労働条件が悪いのが大きな問題。賃金、労働時間、休みが少ない等の問題がある。
- ・労務費を上げ、年間の休みを100日以上にしないと募集しても来ない。
- ・自治体に支援いただいているが、物価に見合った賃上げに至っていない。
- ・国が対策をしてくれないと、乗務員は不足し、公共交通は乗務員がいないと維持できない。
- ・自治体から国に対し、非常事態であることを訴えてほしい。
- ・乗務員達もサービスが低下しないように取り組むので、協議会でも協議し協力をお願いしたい。

遠藤委員

- ・バスカード（ICカード）どのバスでも利用できないか。

北紋バス 大島常務

- ・郊外線にIC化が進んでいない。今後検討していきたい。

事務局

- ・名寄線の代替バスとして北見バス4路線、北紋バス5路線を交互に運行している。名寄線代替バス運営協議会があるので、意見があったことを伝えます。

北見運輸支局 山本首席

- ・今年度から運転手採用時の補助が始まっている。
- ・間接的ですが、DX化みたいところで、人員不足に対しての効率化システムに資する補助がある。
- ・道、市町村の事業で移住定住の補助の活用。
- ・北海道運輸局では、帯広で自衛隊退職者に対する運転手採用につながる相談会を開催。
- ・全道で広域計画は初めてで、素晴らしい成果。これで終わりではなく、地域交通の意見を話し合っ、素晴らしい協議会となってほしい。

遠軽町 佐々木町長

- ・運転手への補助は全国で行っていて、同額なのか。

北見運輸支局 山本首席

- ・全国同じです。

遠軽町 佐々木町長

- ・都会は人が多いので、地方に有利になるような制度だとよいと思う。

- ・無人バス北海道でどうなのか。

北見運輸支局 山本首席

- ・上士幌町で国の補助を利用して実証事業を行っている。
- ・雪の課題はあると思う。

為国アドバイザー

- ・自動運転は始め、国から補助金が出ますが、年間1億円かかる。

(総括)

為国アドバイザー

- ・今までは公共交通は「公共交通の仕組み」に考えが寄ってしまい、結果、やらなければいけない事をバス事業者に預けている。
- ・国の役割をちゃんとやってほしい。国民の生活を守ること、安全保障の面が無視されている。
- ・人口減少している中で、やらなくてはいけないことは、皆がやるということ。
- ・運転免許を持っていない高校生以下や高齢者世代の移動手段を考えると、ターゲットが決まる。その移動手段を最低限確保することが計画では大事。
- ・これから計画を推進し、深化させることが大事。これからの協議会で評価していく。

## 5 その他

湧別町事務局（中湧別～佐呂間線）現状報告

事務局から

- ・公共交通アドバイザーについて
- ・令和6年度のスケジュールについて

## 6 閉会